

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出くちよつといい話〜」受賞作品

はじめに

弊社は今年、創立60周年の節目を迎えることになりました。

これも、ひとえに多くのお客様やお取引先様のお蔭と深く感謝申し上げます。つきましては、創立60周年を記念して、「忘れられない東洋羽毛との思い出くちよつといい話〜」のエピソードを募集しましたところ、195通ものご応募をいただきました。誠にありがとうございます。

ご応募いただきました全作品には、心あたたまるご家族のエピソードや、お客様と弊社営業社員とのエピソード、弊社商品との出会いや、羽毛ふとんのあたたかさを通じて伝わっていくご家族の愛情など、お客様の素敵な思い出が描かれておりました。その中でも選りすぐりの9作品をご紹介しますことができます。

尚、ご応募いただきましたお客様の「東洋羽毛との思い出」を拝見し、お客様だけではなく周りの方々をも幸せにするお手伝いできましたこと、また弊社の商品をとっても大切にお使いいただけているご様子が伝わり、深く感銘を受けました。心より御礼申し上げます。

今後とも、弊社はお客様方に快適な睡眠をおとりいただけるような商品の開発に日々精進してまいります。

尚一層のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

東洋羽毛工業株式会社 代表取締役 柳場 弘

目次

最優秀賞・・・・・・・・・・	2
東洋羽毛北部販売(株)優秀賞・・・・	3
東洋羽毛北関東販売(株)優秀賞・・・・	4
東洋羽毛首都圏販売(株)優秀賞・・・・	5
東洋羽毛北信越販売(株)優秀賞・・・・	6
東洋羽毛東海販売(株)優秀賞・・・・	7
東洋羽毛関西販売(株)優秀賞・・・・	8
東洋羽毛中四国販売(株)優秀賞・・・・	9
東洋羽毛九州販売(株)優秀賞・・・・	10

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出くちよつといい話」
最優秀賞

夫の優しさ再発見

私と東洋羽毛の布団との出会いは、今から18年程前になります。台東区にある事務所に勤務していました。地下の通路で、商品の展示販売をしていたのが、東洋羽毛の展示でした。結婚10年そろそろお布団も少しくたびれてきていましたが、その布団は、私の結婚が決まった時に母が近所の布団店で作ってくれた婚礼組布団で私は、とても気に入っていました。

営業の方の説明は、綿の布団を否定するのではなく、羽毛布団のいいところを説明してくださったのが、とても感じがよかったのを覚えています。色々説明を聞いて、羽毛布団に触れて、私は気に入ってしまいました。人生の3分の1は眠っている時間、その時間が心地よいか否かでは身体に与える影響は、大きいと思えました。その頃の主人は仕事が忙しく連日終電か泊りになり、せめて家に帰った時は暖かい布団で身体を休めて欲しいと思いました。暖かい羽毛布団を買うことに

千葉県・佐藤 孝子 様

決め、掛け布団2枚注文して届くのを楽しみにしていました。届いた夜、早速掛けて休みました。それは、想像以上に温かくて軽い布団でした。翌朝主人が、「軽くて暖かいから、俺はいいから義母さんに掛けてあげて」と同居していた私の母を気遣いとっても温かい言葉をくれました。私は夫の優しい言葉に胸が熱くなったのを覚えています。主人の言葉をありがたく思い母に伝えその晩から母に掛けてあげました。始めは遠慮していた母も、使ってみると軽くて暖かい布団に驚いて、「ほんとありがたいねえ、お父さんは優しいね、あなた幸せだね」と言ってくれました。それなら家族全員で暖かい布団で幸せになろうと、3枚追加のお願いをしました。その時の営業さんは新人さんでしたが今では立派な営業マンになって、新人の時と変わらない態度で接してくださいます。羽毛布団の暖かさが家族の気持ちを暖かくしてくれた思い出です。

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出〜ちよっといい話〜」

東洋羽毛北部販売㈱ **優秀賞**

人の優しさに感謝

山内 ハマ子 様

私は、現在、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故の為、福島県の会津地方に避難しております。あの震災

時、何も持たず、いわき市の体育館に避難しました。季節柄、体育館の中は寒く、配布された毛布の下にダンボールなどを敷いて休んでおりました。体育館での避難生活が2週間位過ぎた頃、小さい子供達が居る家族等は、会津地方への避難を勧められ、会津へ避難した日は、雪が吹雪いており、周りの山々には、雪が積もっておりました。浜通り育ちの私には、こんな雪国で暮らせるだろうかと、不安でいっぱいでした。そんな折り、震災前からお世話になっていた東洋羽毛の社員の方が、わざわざ避難先まで尋ねて来て下さり、「大丈夫でしたか」、「寒さに困っていませんか」と、心温まる言葉をかけて頂きました。避難所では、配布された毛布を、敷いたり掛けたりして、

寒さを凌いでましたので、温かい布団を届けて頂いた時は、本当にありがたかったです。

この災害時、取引きのあった顧客を、一人一人大事にする東洋羽毛さんの会社方針に、とても感銘を受けました。避難生活は、苦労もありますが、多くの教訓も学びました。色々な方々に、色々な支援を頂き、生活する事が出来ました。人の優しさに感謝を忘れず、自分自身も、人に優しさを送れる人でありたいと、日々、精進してまいります。と思っています。

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出〜ちよっといい話〜」
東洋羽毛北関東販売㈱ **優秀賞**

東洋羽毛との出会い

ちよっと四十年前、私は二十才で勤め始めました。

仕事場は福祉の職場でした。私の側の側には、ベテランの看護師や保健師といった免許を有する、どこに行っても食べて行ける先輩女性の方がたくさんいて、とても元気に日々の仕事を行っていました。当時は職場に車は数台しかなくて、皆さんは個人宅への訪問や相談事業に自転車やオートバイ、スクーターを使って、遠く十キロ程の往復をたった一人で、たった一人の相談者のために出かけていました。

新入生の私は、挨拶や職場でのすべきこと等、多くの事を教えていただきました。

そのような中で、一人の保健師さんが次のような事を教えてくれました。「あのね。一日は二十四時間あるけれど、三分の一は寝ている。睡眠が充分でない、あと残された三分の一の仕事も、最後の三分の一の余暇の時間も充実しないの。だから寝る時間も布

団も大事な。働いている女にとって布団干しなんて毎日出来ない。でも出来ない事を気にかけていても良い事なんてないから、少し高価だけれど羽毛布団にしたの。

首から肩にかけて空気が通らないし、軽いし暖かいの。一生この職場で働くつもりなら自分への投資だと思つて、家族四人分を羽毛布団に買い換えたのよ。自分の布団だけ次のお給料からローンで買ってみればいいよ。」

私には少々痛かったけれど、一年経った三月末のお給料から、肌掛け、上掛けという順番で、とうとう両親の布団まで買い揃えました。

そして今、嫁いで三十五年目。家族六人の布団は東洋羽毛のお世話になっています。施設に入所した義母も毎日使っています。少しずつの貯金が満期になると東洋羽毛のリフォームの時です。昨年から今年がその時なのです。



齋藤 宏子 様

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出〜ちよつといい話〜」
東洋羽毛首都圏販売株 優秀賞

人生を豊かにしてくれた東洋羽毛との思い出

小川 田鶴子 様

進化する東洋羽毛の掛布団に出会ったのは今から50年前、子ども時代は重い綿布団で冬は身体を丸めて布団にもぐり、身体の温もりで温かくなる

と足をそーっと伸ばして寝た記憶が鮮明に蘇ります。安い給料では贅沢な品物に手が出ない時代に「身体が資本だからね」と95歳で永眠するまで母は東洋羽毛布団の愛用者でした。

時が流れ、東洋羽毛の布団をすっかり忘れていたころ、職場に出張販売が来ました。懐かしく触っていると母の口癖の言葉が甦り、寝返りしても「ごわごわ」とした音もない布団、敷布団の感触と高級なエジプト綿の掛布団がいつまでも頭から離れませんでした。婚家先の両親の寝具も重く寝返りも容易ではありません。湯たんぽを入れて寝床に入り、朝方には湯たんぽが冷めて目覚めると話すのを聞くと、孫の世話のお礼がしたくて主人に相談しました。無理なく返済出来るローンでプレゼントしました。始めは布団が軽すぎて変な感じでしたがすぐ慣れ、

孫と3人で川の字に寝る幸せを嬉しそうに話してくれたその義父も、93歳で永眠するまで東洋羽毛布団のお世話になりました。

時はまた流れ、東京都看護協会の総会でアリエスに出会いひと目惚れ。価格も唸るほど、高価で無理だなと諦めていたら、職場の同僚が「私は買って使ってたってもいいよ」この一声に励まされ販売員の丁寧な説明で決心、脳梗塞後の足が冷たいと言う夫にプレゼントしました。そんな時、友人のご主人も年をとると寝付きが悪く、足が冷え湯たんぽ使っても眠れなくて困っていると言うので、夫のアリエスの布団に潜ってもらいました。潜った瞬間「この肌触りあったかい！私もヘンクリで買いたい」と即決する友人。そして私の布団に足をすべらせると「冷たいじゃない！あなたは使っていないの？自分の身体も大事にしなさいよ」この声に後押しされて、今では夫婦共アリエスから幸せを頂いております。

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出くちよっといい話」

東洋羽毛北信越販売(株) **優秀賞**

すてきな営業社員との出会い 「ありがとう感謝」

大工原 律子 様

長男が高校を卒業する前に、東洋羽毛さんとの出会いが始まったと思います。ある日の夕方、勤務先に営業社員の方がこられて東洋羽毛という会社ご存事ですか？と言われ、その時はまだ羽毛布団も当り前のように買っていないのではと記憶しています。

その時の会社の説明はとても丁寧でした。中でも心に響いた言葉は「人生の三分の一は睡眠ですよ。」ストレスの多い世の中一日の疲れを快眠に変えて息子が目的に向って頑張ることができるようなら、こんなに素晴らしい物はないかと直感しました。正直お布団の値段を聞いた時は、高いなと、思いました。しかし他では良い品物は中々みつからない。何よりも将来の夢に向う息子への門出の祝い。そう心に決めます。息子へお祝いの品物を買いました。その息子が今では福祉の分野で念願叶い社会福祉士の資格を得て働いています。あの時まよわず買ってよかったと思います。その時以来の東洋羽毛さんのお付き合いが続いています。「今日は・先生お元気でしたか。ピヨマルグッズ持っ

てきました。新しい商品出ました。ご覧になるだけでもいかがですか。」と明るい笑顔と色々なさしさわりのない世間話の中に営業社員の心の中がみえてきます。仕事の手を休め「コーヒーの一杯でもどうぞ。」とホットな一杯をカップにそそぎ、さりげなく、すすめることで、会話がはずみ人の気持をなごませ、営業社員との人間と人間の輪ができ、お客との信頼関係もできます。私の職場に来て下さる営業の方は、とても人柄も良く人間味があり、何よりも販売の仕方にも心がこもっていることです。営業ですから商品も一つでも多く販売しなくてはならないでしょう。お客様の側にたち品物をすすめる心をいつも持ち接して下さることに感謝いたします。これからも東洋羽毛の会社と営業の方にくさんメールを送りたいと考えています。この世の中に人間がいる限り、世の中の様々なざわめきにも負けないものは、心の栄養それはおだやかな人間性そして睡眠なのですから。

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出〜ちよっといい話〜」
東洋羽毛東海販売(株) 優秀賞

おもい

今は昔、そんな懐しい、田舎から上京してからの年月が遙に長くなってしまいました。

だからこそ、その幼き頃が総て楽しく鮮明によみがえってくるのかもしれない。冬になると毎年綿を打ち返して、布団皮を（まるで緋の反物を縫い合わせた）を祖母と母が綿まみれになりながらすぐ技でそこに綿をうまく息を合わせてくるりと入れて、ふかふかな布団が出来、待ちかまえていたかの様にその上に飛び乗って遊び母に叱られたものです。そして上京する時もその愛の布団と共に、未知の都会の地でのよろこび悲しみもその布団が包んでくれました。が、ある日就職先に東洋羽毛の営業の方がみえ贅沢な品と思いながらも手にしてから、羽毛の虜になってしまいました。

森下 美恵子 様

先日洗濯して太陽の薫りを含んだカバーをまじまじと眺めながらつい転寝してしまったところにテレビの取り付け業者が参りました。羽毛にくるまれながらテレビは安堵の脇役。私にとって羽毛は部屋のおしゃれの役目も果たしておりますが「素敵な布団ですが、布団の敷いてある部屋に入るのは初めてです」と。ベッドなら違和感はないのでしょうか。私のオアシスをけなされたような気持ちになりましたが、悪い気持ちはいたしませんでした。こうして羽毛につつまれながら、田舎の吹雪を亡き祖母、そして一人母も同じ羽毛につつまれておりますが、寒くはないか体を案じ幼き日々を懐かしみ今夜の夢はとメルヘンチックになっております。私のおもいをにっている羽毛布団。



「忘れられない東洋羽毛との思い出〜ちよつといい話〜」
東洋羽毛関西販売(株) 優秀賞

忘れられない東洋羽毛との思い出

福島 悦子様

忘れもしない今から十八年前の阪神淡路大震災。私の住んでいたマンションでは、四人の方が亡くなった。私も家の下敷きになったが幸い火災もなく、ガレキの下より這い出し、二日間、公園で飲まず食わずで野宿をした。人間二日間よくもつものだと後で笑い話となった。この二日間は、息子の安否がわからずその場所より動けなかった。二日目の夕方、東灘から歩いて来たとの事、無事が確認出来た為に職場に取り急いだ。職場には、上司の命令で三ヶ月間待機となった。その職場に東洋羽毛の方より電話があり「よろしかったら羽毛布団を打ち直しましょうか」「少し羽毛は少なくなると思いますか」と言う申し出があった。私は、電話口で耳を疑った。再度聞き直した。「はい」と言う返事、職場にはずっと販売に来られていて、わが家には、七枚の羽毛布団があった。その布団は、友人、職場のスタッフがガレキの中より取り出してくれた折、幸いに布団袋に入っていたので多量の埃

をかぶっていた。スタッフの一人が、こんな中で「よく生きていましたね」私、「まだ神戸市に税金払えという事やね」その言葉に皆で大笑いをした。本当は泣けない。この五枚をお願いする事になった。数週間して羽毛布団が職場に届いた。温かい心の温もりと一緒にありがたく感じた。「ありがとうございます」と心で何度も礼を言った。神戸市の仮設住宅には、当選せず、職場が用意してくれた仮設に入居した。仮設は、北区にあり室内は四角四面に五ミリ程の隙間、室内の花瓶の水が氷になった。電気カーペットを使用して、あの羽毛布団、寒いけど、温かかった。人の気持もつと温かった。あれから十八年。今もその布団を使っている。あの「打ち直しましょうか」の一声があればこそである。今から何年生きるかわからないがあ言葉忘れないであろう。東洋羽毛さん本当に「ありがとうございます」今もその時の事を考えると泣が出来ます。「ありがとう」の一言に尽きます。

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出〜ちよっといい話〜」

東洋羽毛中四国販売(株) 優秀賞

東洋羽毛と私たち家族の暖かい絆

福田 里美 様

私は東洋羽毛さんを25年間愛用しています。私は看護師で交替勤務の為、昼夜関係なく睡眠をとらなくてはなりません。以前は、疲れて夜勤あけに帰り、冷たい布団に入りなかなか眠れず、お日さまにたっぷり浴びたふかふかの布団でゆっくり眠りたいと常々思っていました。不眠で疲れていた私に、先輩看護師が「東洋羽毛の布団は、朝出勤前にお部屋に敷いたままで窓を開けておけばふかふかよ」と教えてくれました。その話を聞いた私は半信半疑でもほしいと思いました。当時、入社2年目で、高価な東洋羽毛の布団を購入するのは至難でした。しかし、東洋羽毛の販売員の方が、「人生の1／3の時間を過ごすのです。自分の体へのご褒美として一度このお布団で寝てみてください」と熱弁されていていました。私は清水の舞台から飛び降りる気持ちで購入しました。そして1か月が経過。なるほどいつもふかふかでぐっすり眠れ心も体もリフレッシュで

きました。自分の体で実感して、ついに両親へプレゼントすると両親も大喜びでした。その後、私は結婚。当然東洋羽毛の布団は花嫁道具です。主人は長年木綿布団を愛用。「ふわふわの布団は嫌だ」と言っていたのは3日間。「寝汗かいても不快感ないしなななかいね」つと。すると「自分の両親にもこんな布団で寝かせてあげたい」と言い出す始末。年老いた両親も、初めは抵抗があったようですが、ずっと愛用してくれました。その両親も3年前に他界しましたが、東洋羽毛のお布団の上で静かに息を引き取りました。両親の死をやっと受け入れ先月そのお布団をリフォームしました。我が家の子ども達も生まれた時から東洋羽毛の布団を使っています。旅行先のホテルの羽毛布団では落ち着かないようです。東洋羽毛のお布団は、私達家族と共に長い人生を静かに幸せに歩んでくれています。「本当にありがとうございます」

東洋羽毛創立60周年特別企画

「忘れられない東洋羽毛との思い出〜ちよつといい話〜」
東洋羽毛九州販売(株) 優秀賞

いい会社にはいい人が

ちよつといい話・・・にはならな
いかもと思いつながらペンを持ちま
した。

羽毛布団の話ではなく、会社及び
社員さんの話です。会社が良いと社
員さんも良いと思つたのです。

それは、東洋羽毛の社員さんと話
したものです。

私が羽毛製品を買つた時、社員さ
んとの会話で、

「自分は酒を飲む回数を減らさな
いといけないと思う。アルコール依
存症になるかも知れない。」

「しかし、飲むのを止められない。
休肝日が必要と解つてはいるが、ど
うしても実行出来ない。」

と言われた。

私は、

「アルコール依存症になつてから
は、増々治りが遅くなるし、なんに
も酒を飲めないね。その方が今より
つらいかも知れないし、大変かも知
れない。」

と、言う。

「解つているのだが・・・。」
と言われた。

「今日、製品を買つると、約束した
ので、この記念に月曜日は休肝日に
して下さい。」

「絶対、今日飲むではダメよ。今
日成功すると、来週も飲まなくて生
活出来る。それが続くと週一回の休
肝日になる。」

今頃は週二回の休肝日が望ましい
と、テレビ等と言われていたから、
週一回は絶対実行してもらいたい。

次の日、会社に電話した。私はけ
ちだから勿論フリーダイヤルで。

「昨日、飲まなかった？」

「飲まなかった。」

「良かった！」

「これから実行して下さいね。」
やはり、良い会社には良い社員さん
が集まる。と思つた。

山田 友子 様

